| | |
|---|---|
| 種名 | ア ズ マ ヒ キ ガ エ ル<br>Bufo japonicus formosus<br> |
| 分類 | 無尾目ヒキガエル科ヒキガエル属 |
| 俗称 | ガマ、ガマガエル |
| 形態的な特徴 | 体長は5～18cm。日本在来のカエルの中では最大であり、暖かいところほど大型になる傾向がある。全身に大小のいぼ状の隆起があり、四肢は太くて短い。行動は鈍いが、背中のいぼや鼓膜の後にある耳腺から白い毒液を分泌し、捕食者から身を守っている。背面の体色は変化に富むが、オスでは黄褐色、雌では茶褐色の個体が多い。繁殖期には皮膚がなめらかになり、オスは黄色味が強くなる。 |
| 分布 | アズマヒキガエルは、北海道南部（函館、おそらく人為移入）、本州東北部（近畿および山陰まで）に分布し、佐渡島、伊豆大島には人為移入されている。 |
| 繁殖行動 | 繁殖期は低地ではふつう2～3月頃で、1ケ所での繁殖期間は1週間程度と短い。繁殖は池、溝、湿地、水田、水たまりなどの止水で行なわれ、カエル合戦と呼ばれるメスの争奪戦が展開される。オスがメスに抱きついて抱接すると、メスは水中の枯れ枝や水底に長いひも状の卵塊を産む。卵は1週間ほどで孵化し、全身真っ黒の幼生（オタマジャクシ）になる。幼生は、水中のプランクトンや腐った葉、動物の死骸などを食べて成長する。6月頃に変態し変態時の体長は1cm 程度であるが、落ち葉の間のトビムシなどを食べて急速に成長する。ふつう翌年の秋には6cm 程度にまで達しオスは成熟するが、メスは1年遅れて成熟する。冬季は地中で冬眠し、地中の温度が6～7度になると目覚めて繁殖活動を開始するが、繁殖を終えると1ヵ月ほど春眠をするといわれている。 |
| 生息場所 | 海岸近くの低地から高山まで幅広い環境に生息する。繁殖期以外はほとんど水に入らず、森林や草むら、民家の庭などで生活している。 |
| 食性 | 日中は石や倒木の下に潜んでおり、夕暮れから行動し始めオサムシ、アリなど地表性の昆虫類やミミズなどを食べる。 |
| 生息環境への配慮事項 | 乾田化や冬期の通水停止等によって早春に水のある場所が減り、本種の繁殖場所が減少している。特に西日本に生息するニホンヒキガエルは近年、減少傾向が顕著である。産卵のための浅い水域と非繁殖期を過ごすための森林が隣接して存在するとともに、これらの環境を往復するための移動経路が確保されることが重要である。 |
| 引用文献： http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html を改変 | |